

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
総括研究報告書

今後の社会情勢や助産師の活躍の場の発展を見据えた  
技術教育の内容及び方法の確立のための研究  
( 2 1 I A 2 0 1 2 )

Research to establish the contents and methods of midwifery skills training while  
preparing for future social conditions and the development of the midwives' field of activity

研究代表者 村上明美（神奈川県立保健福祉大学）

### 研究要旨

制約のある教育環境下においても、分べん介助に必要な助産実践能力や技術を習得可能とする教育内容及び方法を示した教育プログラム案を開発した。

教育プログラム原案を作成する場として計3回の全体会議を開催し、令和3年度の調査結果等をふまえ意見交換を行い、プログラムの骨子を検討した。教育プログラムの内容は、シミュレーション教育施設の視察結果を教育プログラムに反映し、分べん介助10例のうち直接分べん介助5～6例・シミュレーション分べん介助4～5例とした。

プログラム評価として実習前後のCBT、実習中のルーブリック評価（3・7・10例終了時点）、実習後のOSCEを実施することとした。プログラム作成と並行してルーブリック作成、OSCE実施要項作成を行った。さらに、プログラム原案について有識者ヒアリングを実施し、意見を反映して教育プログラム案を確定した。

対象者を教育プログラム群とコントロール群に振り分け比較する。必要対象者数の算出には、教育プログラム群の実習後CBT結果がコントロール群と比べて劣らないことを示す非劣性検定(t検定)に基づいて、それぞれ約30名とした。

令和5年度は本プログラムを実施し、多様な社会情勢下における分べん介助に必要な助産技術習得のための教育プログラムの評価を行う予定である。

### 研究分担者

浅見恵梨子（甲南女子大学）	松崎政代（大阪大学大学院）
和泉美枝（同志社女子大学）	眞鍋えみ子（同志社女子大学）
谷口千絵（神奈川県立保健福祉大学）	宮川幸代（同志社女子大学）
野原留美（香川大学）	渡邊典子（新潟青陵大学）
藤井宏子（岡山大学）	渡邊浩子（大阪大学大学院）

## A. 研究目的

本研究の目的は、限られた教育環境下においても、分べん介助に必要な助産実践能力や技術を習得可能とする教育内容及び方法を示した教育プログラム案を作成することである。

## B. 研究方法

### 1. 教育プログラムの骨子と原案の作成

教育プログラムとは、制約のある実習状況下で直接分べん介助 10 例が困難な場合でも、同等の助産実践能力・技術が習得できる分べん介助実習プログラムのことである。3 回の全体会議の場を持ち、教育プログラムの骨子を議論し原案を作成した。

1 回目：令和 4 年 4 月 29 日（金）・30 日（土）同志社女子大学 今出川キャンパス

2 回目：令和 4 年 6 月 2 日（金）

zoom 会議

3 回目：令和 4 年 6 月 12 日（日）

同志社女子大学 今出川キャンパス

議論では、臨地実習でしか学べないものと学内演習で可能なもの、実習で技術教育にどこまで求めるか（助産所や海外でのハンズオフ介助の状況）、分べん第 1 期の学びの重要性、帝王切開分娩を例数に含めるか、各教育機関によって演習内容や評価基準が多様である現状、学内演習における臨床推論や OSCE(Objective Structure Clinical Examination)の有効性等の意見があった。

これらの議論や令和 3 年度の調査結果をふまえて、教育プログラムの骨子を以下のように考案した。

①経験する分べん介助例数は指定規則に則って 10 例程度とし、内訳は直接介助が 5 例、それ以外が 5 例とする。

②直接介助以外でシミュレーション等により教育を補完して 1 例とみなすのは、分べん介助の受持ち同意を得た産婦で、分べん第 1 期のケアが実施できた場合とする（分べん第 2 期以降が時間外などで介助できなかったケース）。

③帝王切開分娩は例数に含めない（シミュレーションは経膈分娩の情報をふまえて行う必要があるため）。

④実習前準備教育を行って実習に臨む。

⑤開始前の CBT を行う。

⑥統一した評価表（ルーブリック）を新たに作成し、10 例中 3 回の形成評価を行う。

ルーブリック評価結果は学生に都度フィードバックすることで、学生の意欲を向上させ主体的な学習に繋げることが期待できる。

⑦実習後（10 例介助後）に到達度評価を行う（CBT、OSCE）。

### 2. ルーブリック評価表の開発

教育プログラムの評価にルーブリックを取り入れるために、本研究班にて分べん介助技術に関してルーブリックの概略をとりまとめ、有識者 2 名からルーブリックについての説明と作成中のルーブリックについて

て助言を得た。

ルーブリックは、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」および「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に基づき作成した。ルーブリックの構成要素は、「別表 12 助産師の求められる実践能力と卒業時の到達目標」および「別表 12-2 助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」の分べん介助に関する項目である。

別表 12 については、正常な分べん介助に係る項目且つ分べん介助に実施可能な項目として、中項目 D.正常分べんの中から 7 項目を採用し、評価項目とそれぞれに該当するチェックポイントを検討した。別表 12-2 については、「項目 2 分べん進行の診断に係る手技」2 課題、「項目 3 分べんに介助にかかる手技」14 課題から構成した。

臨地実習の場で活用するために、別表 12、12-2 を基に作成した 2 つのルーブリックを分べん介助の進行にそって統合した。(分担報告書 研究 1)

### 3. 教育プログラム評価用 OSCE の作成

教育プログラムの最終段階として、実習後に分べん介助に必要な助産実践能力、技術の習得状況を評価するため、OSCE を実施することとした。

「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の別表 12「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標別表」や、別表 12-2「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」、実習前 OSCE 課題 (全 24 項目) を参考

に、研究者間で検討を重ね、学修評価項目、OSCE 課題、OSCE 評価表を作成した。

さらに、OSCE を受験する学生数、OSCE を実施する大学の設備状況、受験する OSCE の課題数、OSCE の実施時間、模擬患者や評価者の養成に要する時間などを考慮し、OSCE 実施要項を作成した。(分担報告書 研究 2)

### 4. シミュレーション教育に有効な最新機器を導入した海外の教育施設の現地視察

シミュレーション教育で学べるもの、助産教育への適合性等を調査し、教育プログラムの内容に反映させることを目的に、視察候補先を選定した。(分担研究報告書 研究 3)

### 5. 教育プログラム原案についての有識者へのヒアリング調査

助産師および産婦人科関連の学会・職能団体および教育関係の有識者 6 名に、作成した教育プログラム原案の実施可能性、妥当性を明らかにするために実施した。(分担研究報告書 研究 4)

## C. 研究結果

### 1. 教育プログラム案の作成

上述の方法に沿って研究を進め、最終的に教育プログラム案を確定した。

#### 1) 研究参加者

分べん介助実習を 1 例目から履修する学生で、自由意思で研究参加に同意した者。

#### 2) 教育プログラム群とコントロール群

本研究では、実習施設等の条件によって直接分べん介助で 10 例の獲得が困難であり、分べん介助シミュレーションの組合せが予想されるものを教育プログラム群とする。一方、直接分べん介助で 10 例の獲得が可能なものをコントロール群とする。

### 3) 必要研究参加者数の決定

直接分べん介助 5~6 例+分べん介助シミュレーション 4~5 例であった学生の実習後の「マタニティケア」に関する知識が、直接分べん介助 10 例であった学生と比べて劣らないことを示す非劣性検定(t 検定)に基づいて対象者数を算出した。

マタニティケアに関する知識の測定には、医学教育の共用試験を参考に、村上ら(科学研究費補助金基盤研究(B) 20H04001:「助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験の実用化と認証システム開発」が開発した助産師教育における実習生のための助産学共用試験(助産学 CBT) のマタニティケア問題の得点を用いた。結果、サンプルサイズは各群 29 名となった。このことから、教育プログラム群、コントロール群とも約 30 名を必要な研究対象者数とした。

### 4) 教育プログラムの評価と測定用具

教育プログラム群とコントロール群の分べん介助に必要な助産実践能力や技術を評価するため、実習前 CBT、実習中のルーブリック評価(分べん介助 3 例終了時、7 例終了時、10 例終了時)、実習後の CBT と

OSCE とした。なお、実習施設によっては 9 例介助して到達度が問題なければ 10 例目を介助できないこともあり、その場合は 9 例終了時点でルーブリック評価を実施することとした。

### ① CBT

本研究では、「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム 2020 (全国助産師教育協議会、2020)」をもとに開発された前述の(科学研究費補助金基盤研究(B) 20H04001:「助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験の実用化と認証システム開発」)の助産学 CBT を用いて助産師教育における基本的知識を問う。

### ②ルーブリック評価

本研究では、厚生労働省「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」別表 12「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、及び別表 12-2「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」の分べん介助に関する項目をもとに作成したものをを用いて評価する。評価は教員が行うが、産直実習等では分べん介助実習の指導助産師が行っても差し支えないとする。

### ③OSCE

本研究では分娩期のアセスメントを含めた課題に限定し、研究参加学生が属する教育機関の教員以外の第三者が行う。

5) シミュレーションを用いた分べん介助 1 例の考え方

直接分べん介助を想定して受け持っていたにも関わらず、分べん第2期以降の助産過程の展開・助産ケアの実施ができなかったケースについて、事例演習やシミュレーション教育等を組み合わせた分べん介助シミュレーションを行ったものとした。具体的には、産婦から学生受持ちの同意を得ていること、分べん第1期の助産診断・助産ケアの実施ができていること、分べん介助シミュレーションは、その後の経膈分娩の情報をふまえて分べん第2～4期を行うこととした。分べん介助シミュレーションには教員と可能であれば指導者が入り、教育効果の点からもできるだけ翌実習日に行うこととした。

#### 6)教育プログラムの構造

教育プログラムの構造は以下となる。また、教育プログラムの流れを図1に示す。

##### 【実習前】

- ①各教育機関で分べん介助実習に必要な準備教育を行う。
- ②CBTを行い、実習前のマタニティケア知識の状況を確認する。

##### 【実習中】

- ①分べん介助実習を行う。直接分べん介助ができなかった時は、適切な方法で分べん介助シミュレーション実習を行う。
- ②3例終了後、7例終了後、10例(9例)終了後にループリック評価を実施する。評価内容は学生にフィードバックする。

##### 【10例終了後】

①CBTを行う。

②OSCEに参加する。

#### 7)倫理的配慮

本研究は研究者が教員であり研究参加者が学生であることから、研究協力への強制力が働かないようにするため、研究協力は自由意思であり、参加の可否が成績に影響しないことを保証した。また、研究倫理相談窓口を設けた(神奈川県立保健福祉大学内)。対象学生にはIDを付与し、個人が特定されないようにした。これらのことは教育機関ごとに、担当者が学生に直接説明する場を設けることとした。

なお、本研究プログラムの実施は、神奈川県立保健福祉大学研究倫理委員会の承認を得ている(承認番号:保大第5-22-39)。

## 2. OSCE 実施要項の作成

2023年度の実習後に行うOSCEの実施要項を作成した。時期は令和6年2月下旬で、場所は同志社女子大学である。研究参加学生が参集して行う、客観的・合同でのOSCEとなる。10例介助後の到達度を測るものとして、場面設定は分娩期の陣痛の観察と、破水時の観察の2場面を作成した。教員評価表(18項目)、評価項目、評価マニュアル(評価者用)、模擬患者対応マニュアルも要項内に含めた。概略評価の区分は1(明らかに不合格)～6(優れている)の6段階としている。また、概略評価で1か2の場合は、コミュニケーション

ン、手技、過度の緊張、医療安全・危険な行為、その他を評価する。

### 3. 実施マニュアルの作成 (資料1)

研究協力校に提示する実施マニュアルとして、「助産技術習得のための教育プログラム評価研究」実施マニュアルを作成した。内容は、研究テーマ、研究目的、教育プログラムの概要（プログラムの流れ、評価の流れ、研究対象者、方法・評価指標）、研究参加の流れ（実習開始前に行うこと、実習中に行うこと、実習後に行うこと）、謝礼、実施に関する Q&A（12 項目）とした。

## D. 考察

### 1. 助産技術習得のための教育方法

Covid-19 の影響によって臨地実習が制限され、その一部がオンライン実習や学内でのシミュレーション教育に置き換わることを余儀なくされている。そのような中で、学内実習やオンライン実習も創意工夫によって一定の教育効果のあることが多数報告されてきた(西本他、2022；早瀬他、2021；益田他、2020)。シミュレーション教育は、模擬的な環境の中で、学習者と患者双方の安全が保証され効果的に技術訓練ができる方法として、その有効性は世界的に実証されている(阿部、2016)。シミュレーション教育は決して緊急避難的な対応などではなく、助産教育などの技能・技術の

育成を求められる教育では効果的な学習の場を創造できる方法なのである。特に近年は、人材育成法や新しい学習法としてブレンド型学習(Blended Learning)という概念が注目されてきた。ブレンド型学習とは、複数の手法をブレンドして新しい学びを構築することであり、この学習法は学習効果を最大化しパフォーマンス向上に繋がるとされている(Christensen et al.,2008)。本研究における教育プログラムもこの考え方に基づくとブレンド型学習に該当すると思われる。ブレンド型学習では、どこにデジタル/バーチャル教材を組み入れるかは多様であり、学習目標に応じて授業設計をすることが重要とされている

(Garrison&Vaughan,2008)。本研究における教育プログラムでは分べん第2期以降のシミュレーション教育の質の担保が最も課題となると考えられる。分べん介助シミュレーションは臨地で行うことを前提としている。臨地実習は若手教員が従事することが多いため、教員の教育力の育成も課題となつてこよう。一方、分べん介助技術の習得には精巧なシミュレータ（実際の分娩機転に近いもの）が理想的だが、どの教育機関も揃えられるわけではない。分べん介助技術習得のゴールをどれくらいに置くのかも今後の検討課題と考えられる。この他、教育プログラムで採用した直接分べん介助5例、分べん介助シミュレーション5例という配分の妥当性も明らかにしていく必要

がある。また、実習前の学内での準備教育は各教育機関に任せているが、プログラムの検証結果によっては、学内演習の内容をある程度均一化していくことや実習前OSCEの導入も考えていく必要があるだろう。

## 2. ハイリスク分娩、帝王切開分娩への対応力習得の課題

本研究における教育プログラムでは、分べん介助の対象は指定規則に則ったものであり、ハイリスク分べんや緊急帝王切開となったものは含めていない。しかし、昨今のハイリスク分べんの増加を考慮すると、ハイリスクへの基礎的な対応力は必要である。帝王切開分べんに関しては、本研究班の令和3年度調査においても、受け持ちの産婦が緊急帝王切開になった場合は相応の学びをしているため、1例に含めるほうがよいという意見が35%であった。ハイリスク分べんや帝王切開分べんの対応力の習得は今後の課題である。そのためには基礎教育終了時に必要な分べん介助の実践能力とはどういうものであるかの議論が必要である。

## E. 結論

限られた教育環境下においても、分べん介助に必要な助産実践能力や技術を習得可能とする教育内容及び方法を示した教育プログラム案を作成した。

## 文献

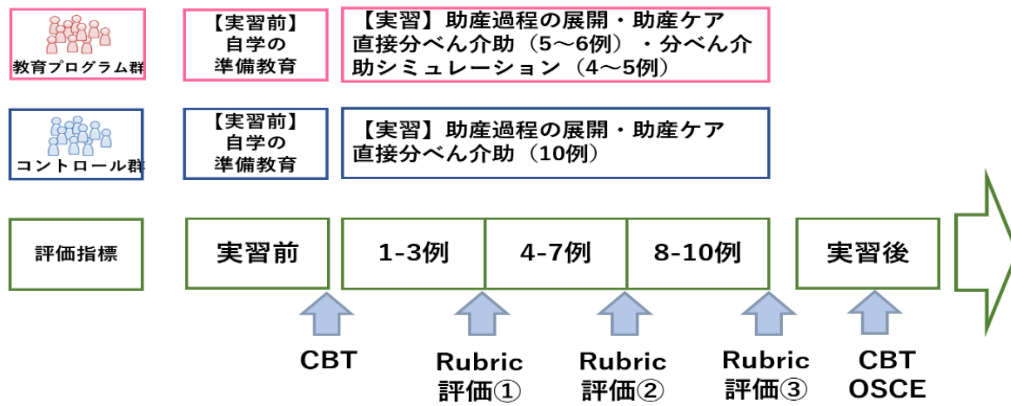
- Christensen, C., M. Horn, and C. Johnson (2008) *Disrupting Class: How Disruptive Innovation Will Change the Way the World Learns* (櫻井祐子訳、教育×破壊的イノベーション、翔泳社、2008年)。
- Garrison, D.R., & N.D. Vaughan (2008) *Blended Learning in Higher Education: Framework, Principles, and Guidelines*, Jossey-Bass.
- 阿部幸恵(2016)医療におけるシミュレーション教育. 日集中医誌、第23巻、pp.13-20。
- 西村葵・佐居由美・樋勝彩子他(2022).シミュレーション演習を実装した完全遠隔型実習の試みーコロナ禍における基礎看護学実習ー.日本看護技術学会誌、Vol.21、pp.23-28。
- 望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020、全国助産師教育協議会
- 早瀬麻子・木下純子・田尻后子(2021).オンラインでの母性看護学実習における学習効果.佛教大学保健医療技術学部論集、第15号、pp.29-44。
- 保健師助産師看護師学校養成所指定規則別表二 (第三条関係)
- 益田美津美・小田嶋裕輝(2020).3-4バーチャル・シミュレーションを用いたハイブリッド型成人看護学実習の取り組み.医学教育、第51巻5号、pp.557-560。

研究発表  
なし

知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)  
なし

### 図表

図1 教育プログラムの流れ



### 資料

資料1 「助産技術習得のための教育プログラム評価研究」実施マニュアル



## 「助産技術習得のための教育プログラム評価研究」実施マニュアル

厚生労働行政推進調査事業費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業  
今後の社会情勢や助産師の活躍の場の発展を見据えた技術教育の内容  
及び方法の確立のための研究（211A2012）

研究代表者：村上明美（神奈川県立保健福祉大学）

## 1 研究テーマ

助産技術習得のための教育プログラムの評価

## 2 研究目的

本研究では実習施設や分べん数の確保が困難等の限られた教育環境における技術教育の方法を検討するために作成した「助産技術習得のための教育プログラム」の評価を行います。

## 3 教育プログラムについて

本研究の教育プログラムとは、助産学実習開始前の学生に対して自学での実習準備教育の後、助産学実習において「受け持ち産婦に対する助産過程の展開・助産ケアの実施」に加え、「直接介助 5～6 例・分べん介助シミュレーション 4～5 例」を行うことです。

### 3-1. 教育プログラムの流れ（図 1）

教育プログラムにおける分べん介助実習は、10 例の分べん介助のうち 5～6 例が直接介助となります。実習の状況は多様であるため、10 例における直接介助事例とシミュレーション事例の順序は問いません。

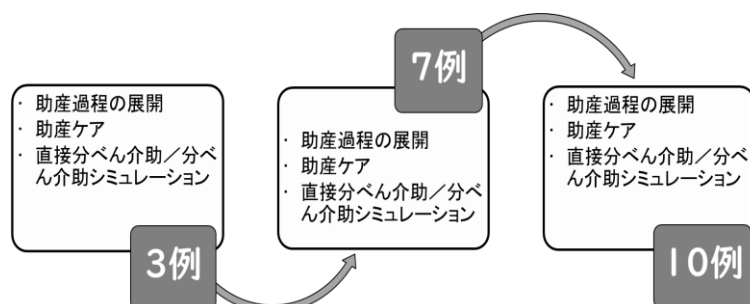


図 1 教育プログラムを実施した助産学実習の流れ

### 3-2. 教育プログラム評価の流れ（図 2）

本研究では、教育プログラム群とコントロール群の両群において、実習前共用試験（Computer-Based Testing；以下、CBT）、3 例終了時①Rubric 評価、7 例終了時②Rubric 評価、10 例終了時③Rubric 評価、実習後 CBT・Objective Structure Clinical Examination（以下、OSCE）を行い、教育プログラムを評価します。

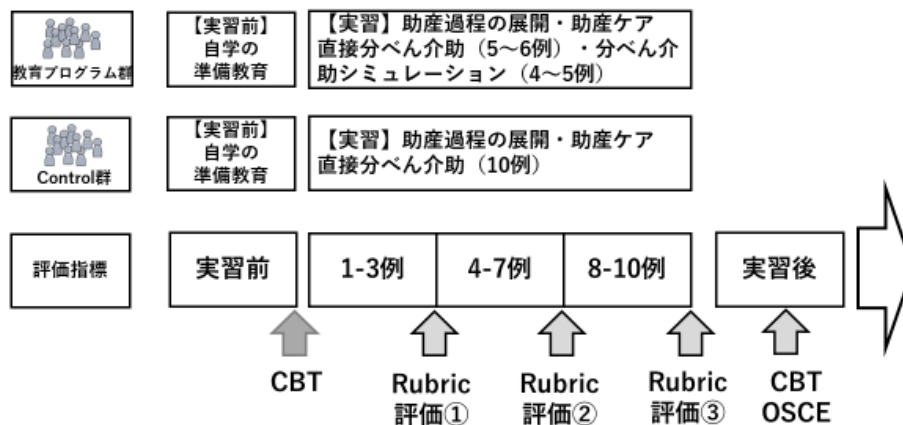


図2 教育プログラムの評価の流れ

### 3-3. 研究対象者

#### 1) 教育プログラム群

助産学実習において、実習時間が限定されるため産婦の受持ちを中断せざるを得ない事例や、産婦1名を2名の学生で受持つため分べん介助ができない事例が比較的多い助産師学校養成所の学生で、自由意思により研究協力を表明した者（35名程度）。

#### 2) コントロール群

安定的に10例の分べん介助が確保されており、実習期間を延長せずとも確実に実習が終了できる助産師学校養成所の学生で、自由意思により研究協力を表明した者（35名程度）。

### 3-4. 方法・評価指標について

評価指標は、教育プログラム群とコントロール群の両群における実習前 CBT、分娩介助3例終了時、7例終了時、10例終了時の各 Rubric 評価、実習後 CBT・OSCE とします。

#### 1) CBT

コンピュータを活用して受験する方式のテストで、場所や時間にとらわれず受験できます。本研究では、助産師に期待される能力を教育内容「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム 2020（全国助産師教育協議会，2020）」をもとに開発された助産師教育における基本的知識を問う CBT を用います。

#### 2) Rubric 評価

学習の達成度を測るための評価方法の一つで、テスト形式での方法では評価が難しい観点を適切に評価することができます。本研究では、厚生労働省「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の別表12「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、および別表12-2「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」をもとに作成した Rubric 表を用いて評価します。

#### 3) OSCE

判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を、適正に

評価する方法です。本研究では分娩期のアセスメントを含めた課題に限定し、第三者が実施します。

## 4 研究参加の流れ（教育プログラム群・コントロール群ともに同じ）

### 4-1. 実習開始前に行うこと

- 1) 研究対象者（学生）の承諾を得る。

対象学生には ID を付与します。ID は研究を通じて使用します。

- 2) 臨地実習開始前の CBT 受験

自校での準備教育終了後、臨地実習前に CBT を受験させてください。学校で集合して受験しても、自宅で個別に受験しても構いません。受験には PC を使用してください。受験時期の目安は実習開始前 1 か月間のどこかでお願いします。

### 4-2. 実習中に行うこと

- 1) 3 回の Rubric 評価の実施

教育プログラム群・コントロール群ともに、3 例終了後、7 例終了後、10 例終了後に教員による Rubric 評価を行い学生にフィードバックしてください。

Rubric 評価は分娩介助実習終了後、日数をあけず速やかに実施をお願いします。

- 2) Rubric 結果の入力と返送方法

Rubric 評価の結果は所定のフォーマットに入力いただき、3 回目の Rubric 評価入力後に USB をご返送ください。

入力フォーマットは USB に入れて研究実施前に窓口教員あてに郵送いたします。

### 4-3. 実習後に行うこと

- 1) CBT 受験

学生に CBT を受験させてください。学校で集合して受験しても、自宅で個別に受験しても構いません。受験には PC を使用してください。

- 2) OSCE への参加

参加全学生に同志社女子大学（京都府京田辺市）に集合していただき OSCE を実施します。日程は 2024 年 2 月（国家試験終了後）～3 月の土日 2 日間を予定しています。このうちご都合のよいほうに参加していただきます。交通費はこちらで負担致します。

## 5 謝礼等について

Rubric 評価及び入力手数料として、学生 1 人当たり 3,000 円を窓口教員の口座にお支払いいたします。

学生には実習前後 CBT、Rubric 評価 3 回、実習後 OSCE のすべてに参加していただいた方に、一人 5,000 円分のクオカードを進呈します。

## 6 実施に関する Q&A

本研究の実施に関する Q&A をまとめました。参考にしてください。

### **Q1. 実習前の準備教育は通常、自校で行っている内容でいいですか？**

A. 分べん介助実習を履修するために必要な内容であればそれで結構です。

### **Q2. 実習前 CBT は実習開始のどれくらい前に行う必要がありますか？**

A. 実習開始前 1 か月くらい間のどこかで受験させてください。CBT は実習前後にあります。受験漏れがないよう各校の教員で責任者を立てる等の対応をお願いします。

### **Q3. CBT の結果は学生に返却されますか？**

A. 結果は受験者に返却されます。

### **Q4. Rubric 評価を行う時期はいつですか？ また、実習施設の指導者が評価することは認められますか？**

A. 原則、教員が分べん介助実習当日にしてください。少なくとも次の分べん介助実習までをお願いします。  
教員が常時実習施設にいない場合は、実習施設の指導者が Rubric 評価をつけてもかまいません。

### **Q5. 研究終了後に、自校の学生の Rubric 評価や OSCE の結果を知ることはできますか？**

A. 今回の研究で得られたデータは個人や個々の教育機関が特定されないように統計処理し、本研究終了後に研究成果報告として協力校にお返し致します。また、各教育機関の個別の状況は結果としてお返しいたします。

### **Q6. 1 例とみなすことのできる「分べん介助シミュレーション」のイメージが付きません。もう少し説明してください。**

A. 直接分べん介助を想定して受け持っていたにもかかわらず、分娩 2 期以降の助産過程の展開・助産ケアの実施ができなかったケースについて、事例演習やシミュレーション教育等を組み合わせた分べん介助シミュレーションを行うことによって、直接分べん介助実習と同様の学習経験を担保しようとするものです。  
具体的には、①産婦から学生受け持ちの同意を得ていること、②分娩 1 期の助産過程の展開・助産ケアの実施を経験していること、③分べん介助シミュレーションはその事例をふまえ分娩 2～4 期を想定して行うことです。

**Q7.教育プログラムの中で、分べん介助シミュレーションをどのように実施していけばよいですか？**

A.原則、次の分べん介助実習までにシミュレーションを実施してください。期間を空けて実施したり、何例か貯めて一度に実施することは教育効果的に望ましくなく Rubric 評価にも影響するのでおやめください。

**Q8. プログラムの分べん介助が 10 例獲得すれば実習も終了となりますか？**

A. 本教育プログラムの対象となるのは 10 例ですので、10 例獲得後に Rubric 評価を実施してください。その後に貴校の所定の実習期間が残っていればそのまま実習を継続してください。直接分べん介助ができる状況であれば指定規則の通り、直接介助 10 例を目指してください。また、実習終了後に貴校の到達度に達していない学生には補習をするなど、通常通りの対応をとってください。

**Q9. 教育プログラム群の場合、直接分べん介助事例が 10 例の中で偏る場合（最初に集中する、あるいはその逆）はどうなりますか？**

A. 実習の状況は多様であるため、直接介助事例が何例目になってもかまいません。そのままプログラムを継続してください。例えば、なかなか分べん直接介助ができず最初の 3 例がすべて分べん介助シミュレーションとなる学生もいると思います。その場合でもそのままプログラムを継続してください。

**Q10. 教育プログラム群の場合、直接介助例数が 5~6 例以上になった場合はどうなりますか？**

A. そのまま最後までプログラムを継続してください。

**Q11. 実習開始後に分べん獲得の状況によって、教育プログラム群からコントロール群に変更（その逆も含む）はできますか？**

A. 原則、途中からの群変更はできません。

**Q12. 研究協力期間中、教育プログラムの進め方や評価の方法等について研究責任者に相談や助言をもらうことはできますか？**

A. 各協力校に対し研究チームで対応係を決めております。その者に随時ご相談ください。

本研究に関連した開示すべき COI はありません。